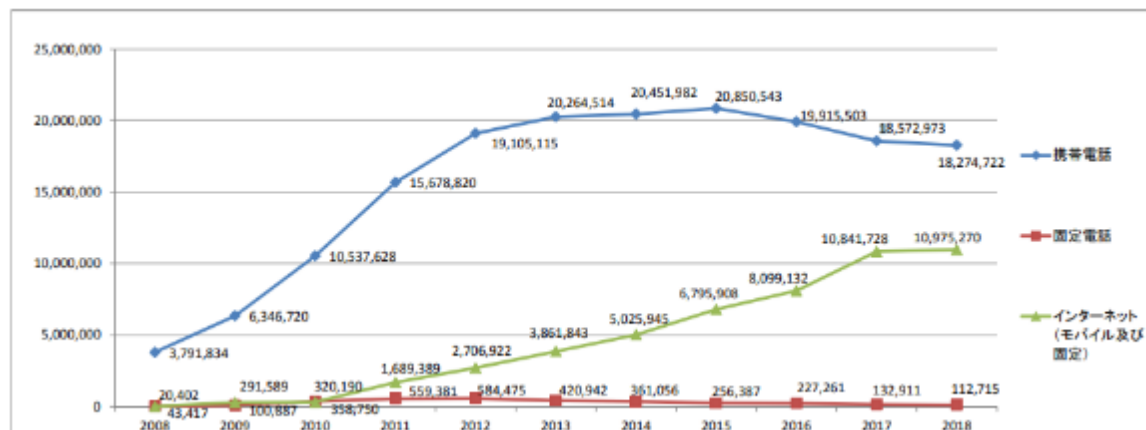


カンボジアの通信環境

- 普及率は、携帯電話が 118%（2018年）、固定電話が 0.84%（2017年）、インターネットが 75%（2018年）となっている。
- 一方で、都市部と地方部ではインターネットの利便性やサービス面で格差があることが指摘されている。
- 2020年8月現在、68のインターネット・サービス・プロバイダー（ISP）免許が交付されている。大手ISP3社は、Metfone、カンボジアテレコム、CogeTelである。2020年10月現在、10MbpsのFTTH（基地局から各家庭まで光ファイバーが繋がっている配線方式）が月額15ドル程度で提供されている。
- 2019年には、Smart Axiata、Viettelが5Gの実証実験を開始し、シェア4位のSealtelも2020年2月に5Gの実証実験を実施した。
- 政府は、2020年までに都市部の100%と、地方部の70%を、最低512kbpsのネットワークでカバーする計画である。
- 国内通信事業者は総収益の2%をユニバーサル・サービス基金の原資として拠出するものとされており、この資金は郵便電気通信省が管理し、主に地方部における電気通信網の拡大に充てられることになっている。
- 本事業の拡大においてはインターネット環境が必須であるが、携帯電話の普及とインターネット環境の向上により、遠隔リハビリ実施の際にインターネット環境の観点で障壁となる可能性は低いと考えられる。

図表 カンボジアにおける携帯電話、固定電話、インターネットの契約数



出所：

カンボジアの通信事情 - 民間活力の導入および競争の促進を通じた発展 -

https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2019/05/global_1905_1.pdf (参照 2021-9)